

## 2026 年度「マレーシア 短期派遣プログラム報告書」

農学部 デザイン農学科 4年 橋本萌乃

### 1. 当初の目的

私は、本プログラムに参加し、マレーシアの農業や環境、文化について現地で学び、日本とは異なる価値観や考え方に触れることを目的とした。特に、持続可能な農業や未利用資源など、環境や社会の課題に対するマレーシアでの取り組みや研究を実際に見て学びたいと考えた。また、現地の学生との交流を通して、異なる文化や背景を持つ人と積極的に関わる力を身につけることも目標とした。今回の経験を今後の大学での学びや研究、卒業後、社会人となった際に自分なりに持続可能な社会の実現に貢献するための視野を広げたいと考えた。

### 2. 目的達成のために現地で活動した内容

#### 【講義】

座学や実験、フィールドワークを交えながら一コマ3時間ほどの講義を受けた。

#### (1) アロマセラピー研究とハーブ薬用植物栽培の可能性

→薬用植物の今後の可能性やマレーシアでの薬用植物の関わりについて学び、民族によって薬用植物の使用主体や担い手が異なることを知り、驚いた。

#### (2) 植物からの芳香成分抽出

→植物からの成分を抽出・分離、分析方法などについて学んだ。実際に、東南アジアでよく色や香りづけに使われるパンダンリーフの芳香成分の抽出を行った。

#### (3) サラワクにおける民族知識、色彩、伝統と文化

→サラワク州の民族の文化について学び、フィールドワークとして校内にある果物の採取や観察を行った。プラサンやランブータン、ドリアンなど日本であまり食べる機会が少ないフルーツを知ることができた。

#### (4) 気候変動対策のための起業：研究室での革新からコミュニティ解決策へ

→気候変動対策について起業家になったつもりで、ビジネスモデルキャンバスを用いながら、どのようにアプローチをしていくかをグループで考え、発表をした。

#### (5) 気候変動の経済学

→気候変動が及ぼす影響や気候変動対策について学び、新しいエネルギー技術が完全に環境に優しいとは限らないこと、気候変動の原因を生み出す生産者だけでなく、消費者も責任を持った行動をするべきであることを学んだ。

#### (6) バイオマスからバイオエネルギーへ：廃棄物の可能性を引き出す

→バイオチャーやバイオガス、バイオエネルギーについて学んだ。これらが、環境保全や気候変動対策につながることを知り、今後の可能性や研究に興味を持った。また、バイオチャーを利用した種子の発芽・初期成長用の成形物やバイオディーゼルの作成を体験した。

#### (7) 農業廃棄物由来天然強化バイオコンポジットの製造と特性評価

→農業廃棄物について、それらをただ活用するのではなく、どのような問題を解決していきたいのかを考え、活用することの大切さを学び、持続可能な循環を作ることの重要性を知った。また、活用例のひとつであるバイオコンポジットを作成した。

#### (8) マレーシアの竹とその応用・UPMS バンプセタム（竹園）現地見学

→竹の種類や利用方法について学んだ。竹は建築材料や紙、繊維などだけでなく、エネルギーや化粧品にまでなることを知り、驚いた。また、校内にある竹園の見学に行き、様々な種類の竹の観察や日本とマレーシアの竹の特徴の違いを実際に見て学ぶことができた。

#### (9) Dr. Keeren による特別講義

→なぜ、熱帯雨林をはじめとした森が大切であるのか、マレーシアの食品ロス問題について、社会問題の課題解決のために大切なことについて学んだ。マレーシアでは文化や慣習により食品ロスが発生していることを知り、食品ロスを削減することよりも、価値のあるものに活用していくことの方が重要なのではないかと考えるきっかけとなった。

#### [ロングハウス宿泊体験]

宿泊先から、車で2時間ほど北上した Niah（ニア）にあるロングハウスで1泊2日の宿泊体験をした。このロングハウスには、サラワク州で最も人口の多い民族であるイバン族が113世帯住んでおり、アブラヤシ農園やニア国立公園が周辺にある地域である。イバン族の伝統的な楽器や音楽とともに歓迎をしてもらい、伝統料理のひとつである竹筒料理やカレーに似た料理を昼食としてふるまってもらった。その後、ニア国立公園の森林局の方からニア国立公園の歴史や取り組みについてお話を伺ったり、住民の方がおやつとして揚げ餅のようなもの「Tumpik（トゥンピ）」や、麺を揚げたようなもの「Kuih Jara（クエ・ジャラ）」を作ってもらった。夕食後は、イバン族の伝統舞踊「Ngajat（ンガジャット舞踊）」やビーズ工芸品の作成を見させていただいた。日本とは全く違う文化や生活様式を体験させていただき、とても貴重な経験となった。

#### [タマン・トゥンピナ動物園]

サイチョウやビントロング、イグアナ、クロコダイルなど日本の動物園でなかなか見ることのできない動物を間近で見ることができた。また、サイチョウはカメラを向けると近寄ってくるなどサイチョウの知能の高さや訪問した前日に、飼育されているイグアナが野生のパイソンに食べられてしまったエピソードに驚いた。また、ボルネオ島にある動物園であるため、自然が豊かであり、葉を紡いで巣を作るツムギアリや世界最大級のアリであるギガスオオアリを野生の姿で見ることができた。しかし、水不足からワニやカメの水槽の水を交換することができず、飼育環境があまり良い状態飼育できていないことに気候変動の影響を感じた。

### [メラナウ族の文化体験]

宿泊先から車で南に 20 分ほど移動した Kampung Jepak (ジェパック村) に行き、メラナウ族の方々と文化交流をした。メラナウ族のおもてなしを意味する音楽で歓迎していただき、メラナウ族の演奏を聞かせていただいた。農大生からも日本の文化として、ソーラン節や桃太郎の劇を披露し、メラナウ族の方々に喜んでもらうことができた。また、メラナウ族の伝統衣装を着させていただいたり、メラナウ族の軽食であるサゴヤシのでんぷんで作られるわらび餅のような「Sagok (サゴック)」にいりこを使った辛いソース「Sambal Ikan Bilis (サンバル・イカン・ビリス)」をからめた料理や生魚料理である「Umai (ウマイ)」の作り方を教えてもらった。軽食後は、メラナウ族の子供や若者を交えて、ゲーム大会をした。メラナウ族は、イスラム教であり、ロングハウスで交流をしたイバン族の方々とは違う文化や慣習を持っていた。マレーシアの多民族国家を体験することができたとともに、民族それぞれに深い歴史があると実感した。

### [バディとの交流]

#### ○バディとのパフォーマンス

UPM の学生 2～3 人と農大生 2 人で 1 グループとなり、開会式後のアイスブレイクにて、事前に与えられていた課題をパフォーマンスした。私の班では、マレー語と日本語、英語の 3 か国語を組み入れた歌の作成を行った。UPM の学生と仲を深める良いきっかけとなった。

#### ○おやつ作り

宿泊先にて、UPM の学生とマレーシアのおやつと一緒に作った。甘いバナナを潰し、衣を絡めて揚げた「Cekodok(チュクドゥ)」と甘みのないバナナを輪切りにし、衣を絡めて揚げた「Cucur pisang (チュチュール・ピサン)」、いりこに衣を絡めて揚げた「Cucur ikanbilis (チュチュール・イカンビリス)」を作った。

#### ○マレー語ワークショップ

3 グループに分かれ、それぞれのグループで、マレー語と日本語を教えあった。以下のマレー語を教えてもらった。

- Saya: 私
- Kamu : あなた (サラワクで使う) /Awak : あなた (マレーシア全体で使う)
- Sayang : ～へ (Dear の意味)
- Saya sayang kamu : 私はあなたを愛している
- Kita : 私たち (We)
- Suka : 好き
- Berapa ? : いくら ? (How much?)
- Saya nak pergi : 私は行きたい (I want to go～)
- Manis : 甘い
- Pedas : 辛い
- Tak : 否定・No を表す →Tak manis : 甘くない/ Tak pedas : 辛くない
- Sangat : とても →Sangat manis : とても甘い/ Sangat pedas : とても辛い
- Mengantuk : 眠い

### ○文化交流（神話・寓話・伝説）

互いの国の伝説や昔話を披露した。UPM の学生からは、サラワクに出現したとされる巨大ワニの伝説「Bujang Senang（ブジャン・スナング）」やマレーシアに伝わる王女の伝説「Puteri Gunung Ledang（プテリ・グヌン・レダン）」、マレーシアサバ州の先住民族の神話「Huminodun（フミノドゥン）」などのお話を聞いた。農大生は、琴や茶道、花札について個々で紹介をし、全体では桃太郎の劇を行った。

### ○文化交流（ヘナ・アート）

UPM の学生がヘナタトゥーを持ってきてくれ、それぞれ書いてもらいたいデザインを見せながら、UPM の学生にヘナタトゥーをしてもらった。デザインを描き、数十分乾燥させ、乾いたら洗い流したら完成。UPM の学生のヘナタトゥーの技術の高さに驚いた。

### ○BBQ

UPM の学生が BBQ を用意してくれ、マレーシアの焼き鳥「Sate（サテ）」やバターやコンデンスミルクを塗った焼きトウモロコシ、焼き魚、手羽先、ハンバーガーなどを食べた。食事が落ち着いてくると、一緒にダンスをしたり日本の曲を歌ったり、ゲームをしたりとさらに UPM の学生と仲を深めることができた。

### ○バティック絵付け体験

バディではないが、UPM の教授がバティック絵付けを教えてくださいました。実際に色を付けてみると思っていたよりも濃くなってしまったり、塗広がってしまったりと思っていたよりも難しかった。

## [ビントゥル市内ツアー]

### ・TAMU（マーケット）

→ビントゥル市街にあるマーケットで、1 階には野菜や果物を売るエリアと鮮魚や肉を売るエリア、イバン族の方々が出展しているエリアがあった。2 階に上がるとフードコートや伝統的な染め物のバティックや伝統衣装が販売されていた。1 階では、日本でも目にする野菜や果物から、マンゴスチンやダバイなど東南アジアで食べられる果物を見ることができた。また、イバン族のおまじないに使う植物などのアイテムや手作りの手編みバッグなども販売されていた。2 階では、バティックが 1 枚 RM10（約 400 円）で販売されており、お土産として購入をした。

### ・Spring（ショッピングモール）

→UPM の学生が買い物によく使うショッピングモールで、ユニクロや H&M、ゲームセンター、KFC など日本でもよく見る店舗やマレーシアで親しまれる ZUS Coffee やホームセンター、マレーシアの回転寿司や雑貨屋などお店が多く集まっていた。

### ・タンジュン・バトゥ・ビーチ

→大気汚染がひどくなる前に行くことが出来たため、サンセットを見た。波が穏やかで、海水も冷たすぎず、とてもきれいな景色を見ることができた。

### [クアラルンプール観光]

大気汚染により、長時間外に出て観光をせずに、ピンクモスクや独立広場を軽く見た後、セントラルマーケットで買い物をした。マレーシアのお土産品として有名ななまこ石鹸や世界のコーヒー生産量のわずか1%しか流通していないマレーシア産のリベリカ種、お菓子や紅茶、洋服、雑貨などが販売されていた。その後、マレーシアのシンボルであるツインタワー等が見える高層階にあるレストランで夕食を食べた。最後に、ツインタワー前まで移動をし、ライトアップされたツインタワー前で記念撮影をした。

### 3. 目標達成度の自己評価

一番の目的であったマレーシアの農業や環境、文化について現地で学び、日本とは異なる価値観や考え方に触れることを達成することができた。講義では、普段、学科では学ばない内容を学ぶことができたことに加え、マレーシアから見た視点で学ぶことができ、知識や考え方の幅が広がった。また、様々な民族の方と文化交流をすることができ、日本では見ることも知ることのできなかった経験をすることができた。そして、多民族国家だからこそ、多様性を多く感じられた。

一方で、積極的に現地の方と交流する目的はあまり達成できなかったと感じる。以前参加した短期派遣プログラムよりも、現地の方や学生に声を掛けることや話を聞くことはできたと思うが、英語で会話をする環境の中で、積極的に話しかける勇気が足りなかったと感じる。間違いや通じなかった際の不安を気にせず、聞きたいことや知りたいことを話すべきであったと思う。しかし、一緒に参加したメンバーは英語をはじめとした言語の習得に力を入れている方が多く、言語を勉強する良さや刺激をもらうことができ、今後の目標を持つきっかけとなった。

### 4. 今後の取り組み

講義で学んだことが興味深いものが多く、もう一度、講義内容をまとめ、日本や他の国々の取り組みや課題点を調べるなどさらに知識を身に付けていきたい。マレーシアが多民族国家である理由や歴史的背景を簡単に知ることができたが、より詳しく知りたいため、調べていきたい。

英語においても、今まで以上に勉強をしていきたい。AIや翻訳アプリなど使うことで英語が話せなくても昔に比べると問題が少なくなってきたが、英語を身に付けておくとさらに自分の可能性が増えると実感したため、苦手を理由に逃げるのではなく、積極的に学んでいきたい。

### 5. その他

(ア)持っていて良かったもの

#### ・ビーチサンダル

：共用お風呂を裸足でお風呂に入りたくない人はあると便利

#### ・携帯用物干しロープ

：大気汚染で洗濯物を外で干すことができず、室内で干すことが多かったが、干す場所が足りなくなったため、携帯用の物干しロープがあると便利だった。

- ・洗濯ネット

：2～3人で一気に洗濯をするため、大きめの洗濯ネットに個々に服を入れておくと洗濯物が混ざらず、洗濯がしやすい

- ・日本のお菓子

：小分けができるものであると配りやすい。

- ・ポケットティッシュ

：マレーシアはトイレットペーパーを使う習慣がないのか、大学内だけでなくショッピングモールなどの商業施設でもトイレットペーパーがないため、ポケット用のティッシュ等を多めに用意しておくが良い。

- ・虫よけ

：蚊がいるため、刺されやすい人は持って行き、携帯して置くが良い。

- ・酔い止め（車酔いをする人は特に）

：普段は道路が整備されているため、車が大きく揺れることはなかったが、ロングハウスに向かう道路が舗装されていない道があり、大きく揺れたため、心配な人は用意しておく安心。

- ・マスク（日数分＋予備）

：大気汚染（ヘイズ）が酷く、体調が悪くなる場合もあるため、マスクは少し多めに用意するべきであると思う。

- ・ボストンバッグ

：もらったプレゼントやお土産などでスーツケースがいっぱいになるため、お土産をたくさん買いたい人はボストンバッグを持って行くと良い。

- ・水筒

：コンビニやスーパー等が宿泊先や学校の周辺にはなく、飲み物を購入できないため、宿泊先や学校に設置されているウォーターサーバーから水筒に水を入れて持ち歩いた。

(イ)用意したがいらなかったもの

- ・トイレットペーパー、洗剤など

：今回は、ビントゥルに着いた翌日に引率の先生方が購入をして下さったため、個人で持って行く必要はなかった。あらかじめ持って行くべきか引率の先生方に相談をしてみると良いと思う。

- ・大量のシャンプー、リンス、ボディーソープ

：予備も含めて多めに持って行っただが、思っていたよりも必要としなかった。シャンプー・リンスは100ml くらい、ボディーソープは200ml で足りた。

(ウ)現地で使用したお小遣いの金額

- ・現金約2万円（お土産もほぼ現金で購入し、2000円ほど余った）

- ・クレジットカード2195円

→コンビニやスーパーが宿泊先付近になく、普段の生活でお金を使う事がほぼない。ショッピングモールに行くなど自由行動日しかお金を使わなかった。マール

ットは現金しか使えないが、商業施設やスーパーはクレジットカードも使えたが、ショッピングモールのフードコートは、クレジットカードは使えなかった。

## 6. 次年度以降の参加者へ

(ア) 事前に準備した方がよいこと

- ・日本のお土産（バディなどへのプレゼント）、レターセットの購入

：バディが最後にお菓子やキーホルダー、服などを大量にプレゼントをしてくれたため、お菓子以外のプレゼントやプレゼントと一緒に添えるための手紙を用意すべきだった。

- ・厚手の上着（パーカーなど）の用意

：長袖のシャツを持って行ったが、空港や大学で授業を受ける際の教室のクーラーが良く効き、寒いことが多々あったため、薄手のシャツではなく、パーカー等の生地が厚めの上着を持って行くべきであった。

- ・フォーマルな服もしくは浴衣の準備

：閉会式で、UPM の学生は民族衣装を着て参加するため、急遽 UPM の学生に衣装を借りる事になってしまった。浴衣か浴衣を持っていなければフォーマルな服を用意しておくべきであった。

- ・現金（リンギット）の用意

：現地の空港では換金をする時間がない。また、ショッピングモールなどの商業施設で換金できる場所を見なかったため、日本で換金をしておくが良い。

- ・小分けサイズのお味噌汁などの日本食の購入

：食事が辛いものが多く、おなかへの刺激が強い。おなか弱い人や辛い物が苦手な人は、マレーシアの食事に疲れてしまった場合や体調がすぐれない時にあると便利であるため、あらかじめ日本で購入しておくとも良いかもしれない。

(イ) 勉強しておくべきこと

- ・語学（英語、挨拶程度のマレー語）

：バディとのコミュニケーションの幅を増やすために必須である。

- ・民族について（イバン族、メラナウ族など）

：ロングハウスでの宿泊体験や文化交流において、知識を簡単に頭に入れておくにより楽しく体験ができると思う。

- ・イスラム教について

：イスラム教徒のバディやイスラム教である民族の方と文化交流をする機会があり、イスラム教での禁止事項について頭に入れておくとし礼な行動につながらないと思う。

- ・植物からの芳香成分の抽出方法について（実験方法など）

：英語での専門用語や実験方法を解説するため、日本語でどのような実験方法であるのかを知っておくと、より楽しく授業が受けられると思う。他の講義の分野も勉強をするべきであるが、特に抽出方法については勉強することが大切であると思う。



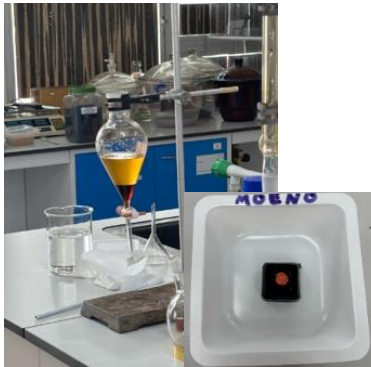
〈パンダンリーフの芳香成分の抽出〉



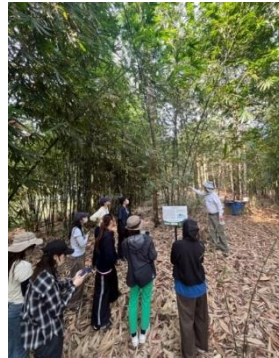
〈果物採取・観察〉



〈グループワーク〉



〈バイオチャー・バイオディーゼル〉



〈竹園の見学〉



〈バイオコンポジット作成〉



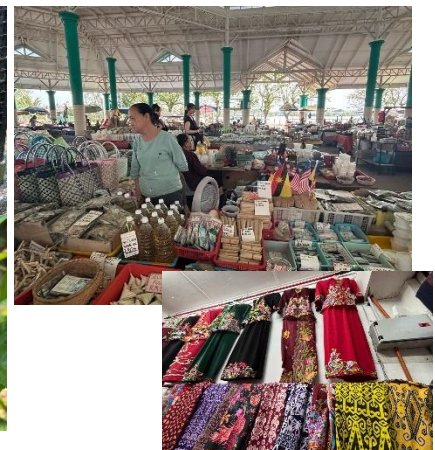
〈ロングハウス〉



〈メラナウ族との文化交流〉



〈タマン・トゥンビナ動物園〉



〈TAMU (マーケット)〉